

# 紀南アートウィーク2021

## 企画概要

紀南アートウィーク実行委員会

# 発起人/総合プロデューサー ごあいさつ

紀南から飛び出して15年が立ちました。22歳のときに、カンボジアで法律事務所を創業して以来、約10年の月日が流れました。世界18か国で事務所を展開しながら、アジア地域や世界における近代化や都市化等の影響により、そこに本来存在していたよいコト、モノや価値観が消滅していく状態を目にしてきました。和歌山県紀南地域というアジアの田舎を出身とする私個人として、「その土地にしかない、そこにしかない価値（アウラ）」を維持し、さらに発展させることが世界の安定や平和に繋がるのではないかと考えています。

今回、紀南地域/牟婁郡独自の「籠りの文化」「港の文化」に着目し、その歴史的価値を再発見し、現代において、新しい価値として提示したいと思っています。グローバル化とローカリゼーションは、対立/分断された概念だと思われていますが、私の考えは、本質的には同じ根っこではないかということです。

その仮説を体現するために、今回、紀南アートウィークでは、南紀白浜エアポートや各分野/地域専門家とパートナーシップを締結し、現地の歴史文化を十分に研究した上、全世界で活躍するトップ現代アーティスト達と作品を招聘します。

「あちゃらもん（紀南弁で「よそ者」の意味）」の現代アートに普遍的な共通点を見出してもらうような工夫を凝らし、持続可能な紀南地域/牟婁郡地域の文化振興、文化教育、一次産業や二次産業の産業経済振興、観光振興等に貢献するとともに、ひいては、紀南地域自体が歴史文化やアートにも貢献できるような活動としていきたいと考えています。

「籠もる牟婁 ひらく紀南」

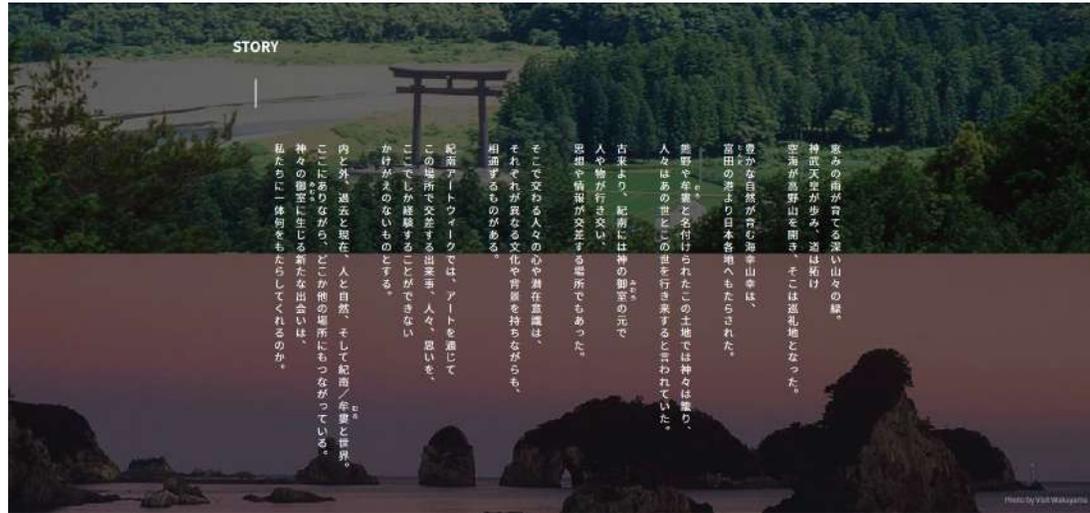
2021年1月  
藪本 雄登



総合プロデューサー  
藪本 雄登

# 紀南アートウィーク 物語と公式ロゴについて

## 「籠りの文化」と「港の文化」



「籠もる：牟婁」 = 「ひらく：紀南」？

和歌山県紀南地域が所在する牟婁郡の「牟婁」という地名には「籠もる」「隠る」「神々の室」という由来があり、豊かな山林資源の中に籠り、内面的な世界を探求することに秀でた歴史的な特色を有しています。高野山の信仰や熊野古道の宗教観は、社会的地位や、信仰、性別等を問わない日本における寛容性と多様性の源泉であり、南方熊楠や長沢芦雪といった奇想天外な人物を輩出し、魅了してきた歴史があります。

その一方、本州最南端の半島である紀南地域は、「開放性」を特色として、かつて黒潮ともに移民文化を醸成してきました。長い海岸線と良質な木材は、古代から高い造船技術を発達させ、物資輸送や水軍の拠点として、歴史上大きな役割を果たしています。堺で最初に利用された船は紀州富田の船であり、かつて富田浦は「港」としての起点を担い、経済文化の中心地でもありました。しかし、現在は残念ながら、牟婁の由来や過去に繁栄した港の存在は忘れ去られているため、本活動を通じて私たちは、その歴史的・文化的資産を現代に蘇らせたいと考えています。



# 開催概要

## タイトル：紀南アートウィーク2021 -籠もる牟婁 ひらく紀南-



**日程**：2021年11月18日（木）～11月28日（日）11日間

**会場**：和歌山県紀南地域 田辺市・白浜町内各所 ※複数個所

**入場料**：入場無料 ※会場によって別途入場料が必要な場合がございます

**主催**：紀南アートウィーク実行委員会

**共催**：株式会社南紀白浜エアポート

**後援**：和歌山県

**協賛**：アドベンチャーワールド、株式会社Ultimate Life、株式会社紀陽銀行 白浜支店、紀陽石油株式会社、古座MORI、五代庵、佐藤生空法律事務所、ナカト産業株式会社、堀河屋野村、まつさか農園、株式会社山長商店、まなべ石油販売、株式会社モリカワ、やぶもと設備

**協力**：アドベンチャーワールド、川久ミュージアム、高山寺、田辺駅前商店街振興組合、南方熊楠顕彰会、アウラ現代藝術振興財団、Artport株式会社、TETAU事業共同組合、NPO法人ZESDA、coamu creative

ホームページ：<https://kinan-art.jp/>  
お問い合わせ：info@kinan-art.jp

**総合プロデューサー**：藪本 雄登

**アーティストック・ディレクター**：宮津 大輔

**地域活性化プロデューサー**：森重 良太

### 実行委員会メンバー：

実行委員長	藪本 雄登
副実行委員長	森重 良太 / 杉 眞里子 / 森脇 碌
顧問	宮津 大輔
事務局長	下田 学
監事	木村剛大 弁護士（日本法・ニューヨーク州法）

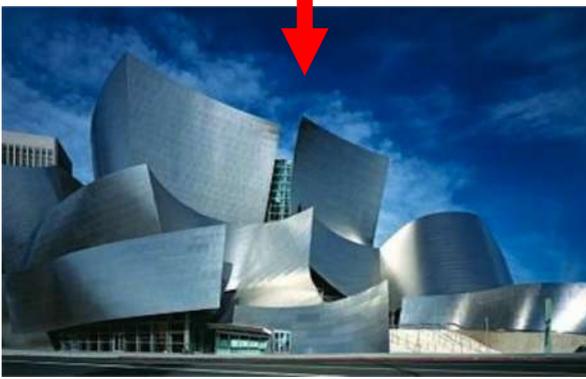
# なぜ現代アートなのか？

## 現代アートには、その場所を再生するチカラがある

- ・翻訳不要な視覚芸術
- ・多様な価値観や他者との共存共栄へ向けたヒント



過疎化脱却



都市・街興し



アート×ビジネス



衰退産業再生

視覚をトリガーとする歴史・文化・食・産業・コミュニティとのケミストリー

# 紀南アートウィークの特徴

## 1. グローバルな現代アーティストの作品の展示

各会場の歴史・文化などの背景を深く掘り下げ、その文脈から導かれるイメージを基にキュレーション、展示を行う。世界的なアートコレクターとしても有名な、アーティストック・ディレクターの宮津氏のコレクション作品を中心に、特に初年度は映像作品を中心に展示。

## 2. 地元ゆかりの現代アーティストの招聘

紀南地方出身、もしくはゆかりのある新進気鋭の作家を2組招聘し、制作（コミッションワーク）を行う。

## 3. 行政予算・補助金に頼らない運営

初年度は実行委員長の自己資金を中心に、ご協賛やご寄付なども受付し、行政の予算や補助金に頼らない開催を行う。中～長期的には事業展開で収益を上げ、持続可能な体制作りを目指す。

## 4. シンポジウム、地域との対談、ワークショップ実施などの地域との活動

- ・紀南とアートのみならず文化、風俗に関する様々なシンポジウムやオンラインでのトークセッション。
- ・農業や観光業などの産業従事者、その他様々な魅力あふれる方々との対談を通して紀南の未来を考える対談企画
- ・教育機関や博物館等との共同ワークショップ など

## 5. 世界とつながる情報発信

HPやSNSなどは全て日英2言語で発信。活動全体を通して紀南の魅力を全世界へ伝えていく。

# 実行委員長のご紹介



**藪本 雄登**  
One Asia Lawyers  
創業者

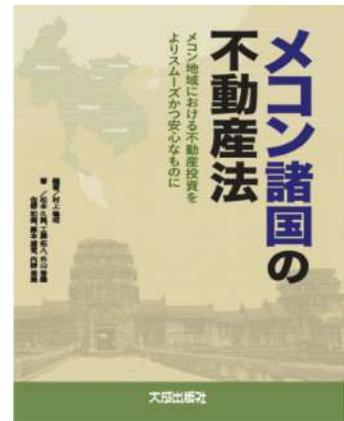
インフラ輸出リーガルプラクティスチームヘッド  
[yuto.yabumoto@oneasia.legal](mailto:yuto.yabumoto@oneasia.legal)

## プロフィール

2011年にOne Asia Lawyersの前身となるJBLメコングループを創業。タイ、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーで約10年間に渡り現地に居住し、実務を行う。現地弁護士と協働し、タイを中心にベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー、南アジア、欧米等の案件を担当。アウラ現代藝術振興財団代表、Artport株式会社代表、紀南アートウィーク総合プロデューサー 等

## 主要著書一覧

- 「南アジアの法務（中央経済社、2021年6月予定）」
- 「東南アジア・インドの労働法務（中央経済社、2021年4月）」
- 「グローバルビジネスのすすめ 第8章（紫洲書院、2021年3月）」
- 「メコン流域諸国の不動産法務（大成建設出版社、2017年）」
- 「カンボジア進出、展開の実務」（同文館出版 2014年4月）」
- 「ラオス進出、展開の実務」（同文館出版 2016年5月）」
- 「カンボジアで事業を興す」（キョーハンブックス 2015年）」
- 「ラオス投資ガイド 2016、2017年、2020年」
- 「カンボジア会社設立マニュアル」（2015年）」
- 「カンボジア労務マニュアル 第3改訂版」（2016年）」
- 「ラオス改正労働法 日本語訳」（2015年）」 等



# アーティストティック・ディレクターのご紹介



アーティストティック・ディレクター  
宮津 大輔

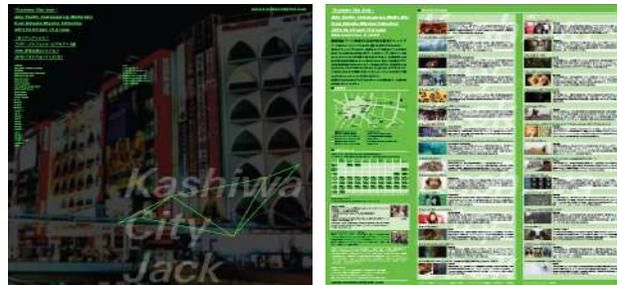
## プロフィール

1963年東京都生まれ。明治学院大学経済学部商学科卒業。京都造形芸術大学大学院芸術研究科修士課程修了。現在は、横浜美術大学学長、森美術館理事等の要職を務める。主な研究領域はアートと経済を中心とした社会との関係性。世界的な現代アート作品のコレクターとしても知られる。一般企業に勤めながら、収集した400点超のコレクションや、アーティストと共同で建設した自宅は国内外で広く紹介されている。また、美術品の修復保存に関する造詣も深い。

文化庁「現代美術の海外発信に関する検討会議」、「羽田オリンピック・パラリンピック レガシー推進タスクフォース」の委員や「Asian Art Award 2017」「ART FUTURE PRIZE・亞州新星獎2019」の審査員などを歴任。NHK総合テレビ「クローズアップ現代+」「NHKニュース おはよう日本」からバラエティ番組までメディアでも広く活躍する一方で、国内はもとよりアジア各国での講演多数。主な著書に「新型コロナはアートをどう変えるか」「アート×テクノロジーの時代」などがある。

## 宮津氏映像コレクション 展開実績

- ◆ 映像作品が街中をジャック『Kashiwa City Jack』2012年10月27日(金)-11月4日(日)



- ◆ 台湾・高雄の美術館・金馬賓館当代美術館で『宮津大輔 25年録像収蔵展』開催  
2020年5月22日(金)-2021年1月3日(日)





高山寺



# 具体的な展示会場

川久ミュージアム (ホテル川久)



南方熊楠顕彰館



白浜駅前・真珠ビル



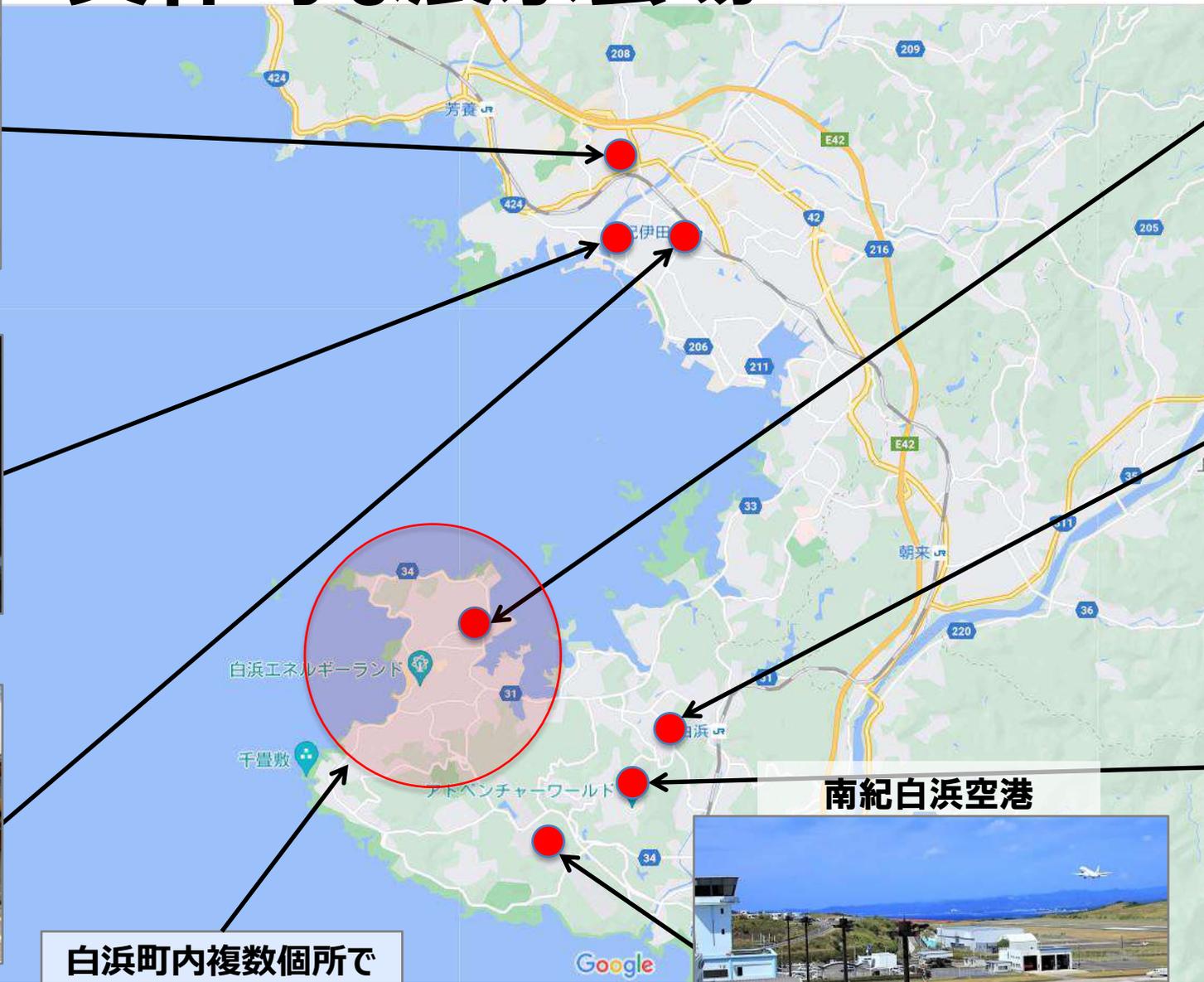
田辺駅前商店街



アドベンチャー・ワールド



白浜町内複数個所で  
展示する作品



南紀白浜空港



# 会場ごとの展示案

※作家、作品は全て案です

● = 出展決定アーティスト

## ◆【南方熊楠顕彰館】

・前田耕平 ●

《Over to you》など南方熊楠にまつわる展示



田辺出身の  
若手アーティスト

## ◆【田辺駅前商店街】 複数の空き店舗での映像展示

・AFU maldiram tale ●

・山内光枝

・小林健太 ● など

## ◆【高山寺】

・アピチャップン・ウィーラセタクン 《My Mothers Garden》 ●

・前田耕平（新作） ●

## ◆【白浜駅前・真珠ビル】

・志村信裕 ●

・ミン・ウォン ●

## ◆【南紀白浜空港】

・一柳慧

## ◆【アドベンチャー・ワールド】

・長谷川 愛 《私はイルカを産みたい…》 ●

・岸 裕真 《Neighbors' Room》 ●

## ◆【川久ミュージアム】

・吳 長蓉 Wu Chang-jung 《記録片IV-小碎肉布》 ●

・ホー・ツーニエン ●

・Ade Darmawan ●

## ◆【白浜町内複数個所】

・河野愛 《in the nursery》 ●

祖父が創業された旧コガノイホテルで使用されていた  
ネオン管を使った作品の展示

白浜ゆかりの  
若手アーティスト



# (参考) 展示イメージ

映像作品の展示が中心です。  
それぞれの展示場所に合わせた方法で、作品を展示します。



## 船場アートサイトプロジェクト Vol. 01

会期：2021年7月17日[土] - 9月5日[日]

会場：船場エクセルビル 2F- 5F ※ (旧) 船場合同ビル

主催：ARTLOGUE 共催：辰野株式会社、文化芸術経済振興機構

協力：東方文化支援財団、アウラ現代芸術振興財団

# 地域連携コラボ企画

## 『博多通りミクソマイシー（仮）』

### 田辺市街地の新たなカルチャーエリアに 世にも不思議な生き物＝粘菌が溢れたす11日間の文化祭

紀南アートウィークの展示会場の一つ、南方熊楠顕彰館から徒歩1分。  
過去には『博多通り』と呼ばれた狭い一本の路地沿いでは、この数年、個性豊かな店舗が  
続々とオープンし、店主たちが繋がり合い、様々なイベントが実施され、作家やクリエイターが  
集い、（まるで粘菌が広がっていくかのよう）有機的で文化的な土壌が育まれてきています。

今回、紀南アートウィークの期間中に南方熊楠顕彰館で熊楠に関する展示を実施することから、博多通りの店舗の方々と「熊楠」や「粘菌」をテーマに様々なコラボレーション企画を行うことで、鑑賞するだけでなく、触って・作って・口にして、熊楠の見た世界を五感でより楽しんでいただけるような体験を提供します。

※ワークショップの実施、アクセなど限定商品の販売、限定メニューの提供など  
各店舗ごとのキャラを活かした個性的な実施内容を準備中。



※画像は全てイメージです

## < 具体的な実施エリアイメージ >



# 地域連携コラボ企画

## 『紀南アート “ブック” ウィーク（仮）』

### アート/デザイン専門古書店の限定本棚が白浜に登場

昨年秋、白浜町にオープンした紀南では珍しい独立系古書店『ivory books』に、大阪の老舗アート/デザイン専門古書店の『ON THE BOOKS』がやってきます。しかも、交換本棚という事で、ivory booksの本棚は大阪に初上陸。今回は紀南アートウィークとの合同企画として、同芸術祭の開催期間（11/18～11/28）に合わせて、個性あふれる両店の店主がセレクトしたアートにまつわる様々な古本たちが、白浜へ、大阪へ、旅をします。

### < 実施店舗のご紹介 >

## ivory books

（白浜町）

和歌山は紀南地方、海沿いの町 白浜町にひっそりOPENした小さな本屋です。実店舗はかつて銀行だったレトロな建物の中にあります。お店の由来であるivory(アイボリー)はお店の壁の色、そして取り扱う書籍達の紙の色から。新刊と古書を取り扱っています。

<https://ivorybooks.thebase.in/>  
<https://www.instagram.com/ivorybooks.jp/>



（大阪市）

古本・古書・道具・雑貨の販売と買取。ディスプレイやスタイリングのご提案。アートブックからサブカルチャーまで、ドキドキとワクワクが詰まった様々なジャンルをセレクトしています。  
<http://on-the-books.info/wp/>



# (参考) 費用概算

## ■ 支出計画 2,063万円

(1)紀南アートウィーク展示設営費	1,143万円
・企画制作費（デザイン会社への委託費、芸術監督、アートディレクター、キュレーター等の人件費等）	326万円
・作品関連経費（作品利用料、アーティスト費、運送費、保険費等）	122万円
・機材費（高精度プロジェクタ、モニター、金具等）	225万円
・設営工事費（作品設置費、施工費、看板設置等）	335万円
・公式カタログ、ガイドブック制作費用、印刷費用	85万円
・消耗品費等（電源コード、延長ケーブル等）の調整費、雑費	50万円
(2)運営費	920万円
・人件費(アーティスト、各専門家、実行委員会メンバー、現場責任者、アルバイト等)	565万円
・広告販促費（インタビュー等の関連記事作成、翻訳、ポスター、HPデザイン、コーディング費用、Tシャツ、エコバックデザイン等の制作費等）	355万円

支出計画合計(1)+(2)=2,063万円

# 活動のご紹介

# オンライントークセッション「紀南ケミストリーセッション」

## 「紀南ケミストリー・セッション」とは

**目的：地域の歴史、文化、風俗を深く、また多様な視点で見直す  
文化的催事における地域特性を高める**



**幅広い領域の有識者による  
「トーク&セッション」をオンラインで継続的に実施  
「化学反応」を期待**

満員御礼

# 第1回「紀南ケミストリー・セッション」

2021年秋に予定する「紀南アートウィーク2021」の開催に先立ち、様々な有識者によるオンライン・トークセッション『紀南ケミストリー・セッション』を3月より開始いたします。

第1回は「なぜ、いま、紀南アートウィークなのか」をテーマに、本プロジェクトの総合プロデューサーである藪本雄登と、アーティスティック・ディレクターである宮津大輔氏によるトークセッションを、オンライン配信（無料）にて開催いたしました。

紀南地域の魅力と現代アートのケミストリーがどのように展開していくのか。地域の歴史や文化、現代アートへの造詣の深い両人の対話を通して、その可能性を探りながら、地域の持つ力の本質に迫りました。

## 【紀南ケミストリー・セッション 開催概要】

- 日時：2021年3月5日（金） 19：00～20：30
- 会場：オンライン（ZOOMウェビナー）
- 参加費：無料
- 申し込み：チケット予約サイト「[Peatix](#)」内イベントページ、もしくは下記メールアドレスから  
メールアドレス：[info@kinan-art.jp](mailto:info@kinan-art.jp)

## 「なぜ、いま、紀南アートウィークなのか」



アーティスティック  
ディレクター  
宮津大輔氏



総合プロデューサー  
藪本雄登氏

- 総合司会：森重良太氏

100名以上  
満員御礼

# 第2回「紀南ケミストリー・セッション」

第2回目は「籠もるとひらく - 知の巨人・南方熊楠と現代アート - 」と題し、紀南を、日本を代表する知の巨人・博物/生物/民俗学者の南方熊楠をテーマとするトークセッションを、オンライン配信(無料)にて開催。

ゲストには、南方熊楠についての著書や論文も多く、変形菌への造詣も深い哲学/文化人類学者の唐澤 太輔氏と、紀南の出身であり、南方熊楠にまつわる作品も手掛けるアーティストの前田 耕平氏をお迎えします。かねてより親交もあり、過去には南方熊楠の哲学思想を追った「まんだらぼ」プロジェクトで協働したこともあるお二人の対話を通して、南方熊楠と現代アートとの接点、そこから見えてくるものに迫りました。

## 【第2回 紀南ケミストリー・セッション 開催概要】

- 日時：2021年5月28日(金) 19:00～20:30
- 会場：オンライン (ZOOMウェビナー)
- 参加費：無料
- 登壇者：唐澤 太輔氏 (秋田公立美術大学 准教授)  
前田 耕平氏 (アーティスト)
- モデレーター：宮津 大輔氏 (紀南アートウィークアーティストックディレクター)
- お申し込み：チケット予約サイト「Peatix」内イベントページ  
<https://kinan-chemistry-session-2.peatix.com>

## 「籠もるとひらく - 知の巨人・南方熊楠と現代アート - 」



■ 唐澤太輔氏



■ 前田耕平氏

- モデレーター：宮津大輔氏
- 総合司会：森重良太氏



第3回は「道をめぐって - 移動が生む社会、文化の変化 - 」と題し、熊野古道をはじめとした『道』そのものをテーマとするトークセッションを、オンライン配信(無料)にて開催。

ゲストには、「ストリート思想」などの著書もあり、現代美術への造詣も深い社会学者の毛利嘉孝さんと、世界各地の道を踏破しながら熊野古道のガイドもされている絵地図作家の植野めぐみさん、熊野古道の様々なルートを人力で踏破しながらその魅力を発信されている坂本このみさん、の3名の方々をお迎えしました。

熊野の道や世界の道を舞台に、歩くことや移動することが、社会に、文化にどういった変化をもたらしてきたのか。

それぞれの領域で深く道と関わってこられたゲストの視点から、「道」の意味・価値を改めて捉えなおすお話がたくさん出ました。

### 【第3回 紀南ケミストリー・セッション 開催概要】

- 日時：2021年8月28日(金) 19:00～20:30
- 会場：オンライン (ZOOMウェビナー)
- 参加費：無料
- 登壇者：毛利嘉孝さん(東京藝術大学教授/社会学者)  
植野めぐみさん (絵地図作家)  
坂本このみさん (熊野ログ管理人)
- モデレーター：宮津 大輔氏 (紀南アートウィークアーティストテックディレクター)

### 「道をめぐって - 移動が生む社会、文化の変化 - 」



■ 毛利 嘉孝さん



■ 植野 めぐみさん



■ 坂本このみさん



■ モデレーター：宮津大輔氏



■ 総合司会：森重良太氏

# 紀南ケミストリー・セッション アーカイブ

#第1回「紀南ケミストリー・セッション」の  
動画アーカイブ、テキストアーカイブ



#第2回「紀南ケミストリー・セッション」の  
動画アーカイブ、テキストアーカイブ



それぞれ公開中！  
公式Webサイトからご覧いただけます。



# 南方熊楠にまつわるコラム

特別寄稿

唐澤太輔氏

哲学 / 文化人類学者

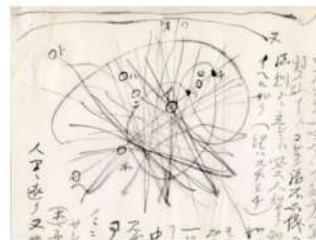
## こもり即ひらけ

- ミクロの世界に「大宇宙」を見る熊楠 -

第二回ケミストリーセッションに先立ち唐澤太輔氏より南方熊楠についてのコラムをご寄稿いただき、ホームページにアップいたしました。

<https://kinan-art.jp/info/633/>

へどつながつていたのです。熊楠は、この時期——研究者は「熊楠関係論」と称しだします——に、これまで書いてきた知をスパークさせています。その表れの一環が、いわゆる「南方マンダラ」です。その真意の図は、熊楠独自の「コスモロジー」を表しています。そして、その熊楠の観の目的のような形状は、熊楠の動物性と呼吸するアトミックの形状と非常に似ています。熊楠自身は、「南方マンダラ」とこの熊楠の形状の類似に言及してはいません。しかしながら、彼のこの時期に熊楠を非常に熱心に研究し、「熊楠論を用いた発想」を行っていたことを鑑みるならば、やはり、「南方マンダラ」の熊楠の思想に熊楠の影響がきつとあったと感じます。



「南方マンダラ」  
© 南方熊楠関係論 (2021)

「熊」と「楠」という動物と植物をその名にもつながら、熊楠という動物とも植物ともつかない（その南方でもある）生物を探求したことは、何れも重要なものを感じます。3年後、熊楠は動物山を下り、田辺町に在りようになりました。もちろん、熊楠の研究は継続して行きました。そして、有名な社会批判運動を断行しています。これは、日本におけるエコロジー運動の先駆けとも言われています。熊楠が、この運動を開始したきっかけにも、以下で述べるように、熊楠は熊楠は大きく関与していました。

# Facebook・インスタグラム・Substack

## ◆facebook フォロワー 2万人突破

## ◆ インスタグラムやっています！

和歌山県紀南地域/牟婁郡を舞台としたアートイベント。様々な場所で、国際的な芸術家の作品を展示します。  
This is a contemporary art event set in the Kinan Area of Wakayama Prefecture, Japan.

友達31人を含む21,066人が「いいね！」しました



21,176人がフォロー中です

<https://kinan-art.jp/>

メッセージを送信

info@kinan-art.jp

価格帯・該当なし

アートと娯楽・ローカルサービス・イベント



フォロワーは  
**20,000人**  
を超えました  
(8月27日日現在)

1月12日の  
リリース以来

<https://www.facebook.com/kinan.art.week>

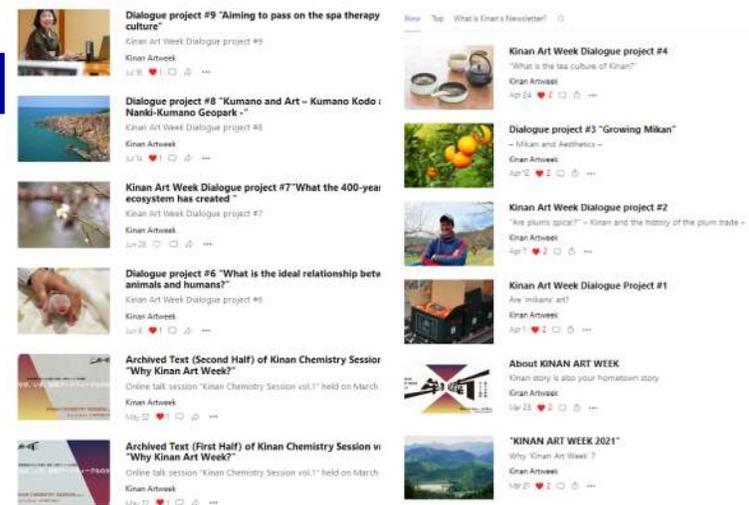


[https://www.instagram.com/kinan\\_art\\_week/](https://www.instagram.com/kinan_art_week/)

## ◆「Substack」 配信中！



Dialogue project #5 "The origin of plum production in Kinan"



<https://kinanawap.substack.com/>

# 対談企画&アーカイブ (公式HPにて公開中)

## # Vol.1 「みかんはアートか」

善兵衛農園」井上代表(7代目) ×  
紀南アートウィーク 藪本実行委員長



## # Vol.2 「梅はスパイスか!？」

-紀南と梅の交易史-

みなべ町・山本農園 山本宗一郎氏 ×  
紀南アートウィーク 藪本実行委員長



## # Vol.3 「みかんを育てるということ」

-みかんと美意識-

有田川町・松坂農園 松坂進也氏 ×  
紀南アートウィーク 藪本実行委員長



# 対談企画&アーカイブ (公式HPにて公開中)

## # Vol.4 「世界につながるお茶文化とは？」

-おもてなしの文化はアート？-

株式会社モリカワ 代表取締役 森川 直巳氏 ×  
紀南アートウィーク 藪本実行委員長



## # Vol.5 「紀南における梅づくりの原点」

-世界にもっと広がる梅-

株式会社東農園 会長 東 善彦氏 ×  
紀南アートウィーク 藪本実行委員長



## # Vol.6 「動物と人間のあるべき関係性とは？」

-動物の姿そのものがアート？-

アドベンチャーワールド 副園長 中尾 建子氏 ×  
紀南アートウィーク 藪本実行委員長



# 対談企画&アーカイブ (公式HPにて公開中)

## # Vol.7 「400年の循環が作り出したもの」

-“まちキャンパス”とは?-

まちキャンパスプロジェクト

プロジェクトリーダー 上野 章氏 ×

紀南アートウィーク 藪本実行委員長



## # Vol.8 「熊野とアート」

-熊野古道と南紀熊野ジオパーク-

南紀熊野ジオパークガイドの会他 神保 圭志氏 ×

紀南アートウィーク 藪本実行委員長



## # Vol.9 「湯治文化の継承を目指して」

-湯治場の価値とは?-

旅館しらさぎ 女将 熊野 幸代氏 ×

紀南アートウィーク 藪本実行委員長



# 対談企画&アーカイブ (公式HPにて公開中)

## # Vol.10 「お寺の価値と役割、そして、アートと未来」

大泰寺 住職 西山 十海さん ×  
紀南アートウィーク 藪本実行委員長



## # Vol.11 「港の玄関口」 - 白浜駅前のこれから -

美容師 尾崎 寿貴さん ×  
紀南アートウィーク 藪本実行委員長



## # Vol.12 「人生参加型工務店はアート」

株式会社 高垣工務店 代表取締役社長  
石山 登啓(のぶひろ)さん ×  
紀南アートウィーク 藪本実行委員長



# 対談企画&アーカイブ (公式HPにて公開中)

**# Vol.13 「紀南における食とアート」**  
 フレンチレストラン「キャラバンサライ」オーナーシェフ  
 更井亮介さん ×  
 紀南アートウィーク 藪本実行委員長



**# Vol.14 「熊野の価値とは？」**  
 世界遺産センター所長 山西 毅治さん ×  
 紀南アートウィーク 藪本実行委員長



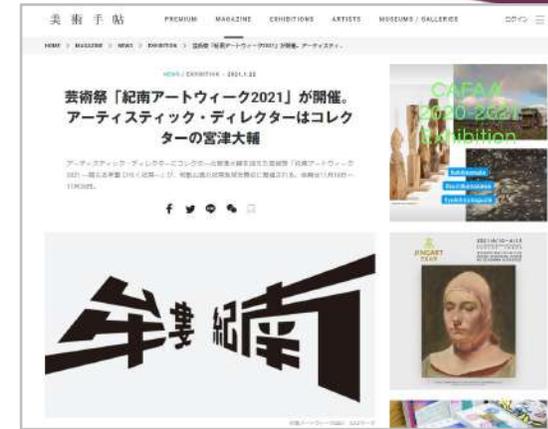
**# Vol.15 「白浜の未来とアート」**  
 和歌山県庁 企画政策局 桐明 祐治さん ×  
 白浜町役場 大平 幸宏さん ×  
 紀南アートウィーク 藪本実行委員長



# 活動内容のご紹介

## ◆【美術手帖にご掲載いただきました】(1/12掲載)

日本国内を代表するアートメディア、美術手帖のオンライン版で紀南アートウィークを取り上げていただきました。



## 【Time Out Tokyoにご掲載いただきました】(4/6掲載)

世界58か国で展開するグローバルメディア、タイムアウト東京版の特集記事『2021年、見逃せない芸術祭4選』で、歴史や実績のある他の芸術祭とともに紀南アートウィークを取り上げていただきました。



## ◆【Tokyo Art Beatにご掲載いただきました】(8/21掲載)

東京を中心に世界のアート情報を網羅するメディア、Tokyo Art Beatの特集記事『山、海、街全体がアートの舞台。2021年下半期に訪れたい芸術祭11選』で紀南アートウィークを取り上げていただきました。



# 活動内容のご紹介

## ◆【紀伊民報にご掲載いただきました】

2021年2月24日付には、開催決定とオンラインセッションについて  
2021年8月13日付には、展示会場決定について

どちらも第一面にてカラーでご掲載いただきました



2月24日版



8月13日版

## ◆【新型コロナはアートをどう変えるか？】

紀南アートウィークのアーティスティック・ディレクターであり、  
実行委員会の顧問でもある横浜美術大学学長の宮津教授による新著  
『新型コロナはアートをどう変えるか』(光文社新書)が、刊行されています。  
第3章の中で「紀南アートウィーク」についても触れられています。



# 活動内容のご紹介

【紀南アートウィーク 紀南活動レポート Vol.1】

## ◆白浜町立富田中学校にて、藪本実行委員長がワークショップ開催

(2020年11月7日)

(富田中学校は藪本自身の出身校でもあります)

講演タイトルは「未来を創造する紀南人へ」

- 2030年に社会の担い手になる中学生 未来を創造する、新しい価値を生み出せる人に -」

(当日の様子は2020年11月10日付の紀伊民報様に掲載)



【紀南アートウィーク】の紀南活動レポート Vol.2】

## ◆県立田辺中学校でも藪本実行委員長がワークショップ開催

(2020年12月11日)

講演のタイトルは「未来を創造する紀南人へ」

- 2030年に社会の担い手になる中学生 未来を創造する、新しい価値を生み出せる人に -」

(当日の様子は2020年12月12日付の毎日新聞様に掲載)



## ◆今後も地域の学校にて継続して開催予定

大塔中学校・神島高校など

## ■ お問い合わせ ■

<紀南アートウィーク事務局>

- Mail: [info@kinan-art.jp](mailto:info@kinan-art.jp)
- 電話 : 090-3710-3866(下田)